

# みずのえほん

はにゆうしりつとしょかん

<p><b>「みずとはなんじゃ?」</b> かこ さとし/作 小峰書店 E/ミ</p> <p>あさおきて、顔を洗う「みず」。うがいをしたり、のど       んだりする「みず」。花や植木の根本に注いでやる「みず」…。水は一体どんなものなのでしょうか?</p>	<p><b>「みずたまのたび」</b> アンヌ クロザ/さく 西村書店 E/ミ</p> <p>ネコの水入れに、ひとつぶのこった小さな       みずたまが旅にでる。太陽のおかげで空に舞い上がり、雲にのり、雨になって…。</p>
<p><b>「水の絵本」</b> 長田 弘/作 講談社 E/ミ</p> <p>どんなものより すきとおってて いろんな       いろも してないのに いろんな いろにでも なれるもの。</p>	<p><b>「みずちやぽん」</b> 新井 洋行/さく 童心社 E/ミ/ハジメ</p> <p>みず水、びちゃ。つぎつぎに、ほと、ほと、ほと       しゃ。あっちこっちからざあー！身近な自然である「水」の勢いや清涼感が味わえる新感覚絵本。</p>
<p><b>「じゃぐちをあけると」</b> しんぐう すすむ/さく 福音館書店 E/ジ</p> <p>じゃぐちをあけて、さあ、はじまり。指では       じいて、チュッ。手でたたいて、パシャーン。コップにあてて、すべりだい。コップのうえにあてると、みずのふうせん…。</p>	<p><b>「みずたまレンズ」</b> 今森 光彦/さく 福音館書店 E/ミ</p> <p>あめ雨にぬれた花や葉っぱ、くもの巣などにた       くさんついている、キラキラ光るきれいなみずたま。小さな虫になったつもりで、そっと丸いみずたまのなかを覗いてみると…。</p>

<p><b>「みずくさむらとみずべむら」</b> カズコ G.ストーン/さく 福音館書店 E/ヤ</p> <p>ほたるいけの中に「みずくさむら」という小さな村がありました。雨が降ってくると、あ       めんぼやげんごろうたちはおよろこびで波乗りをしたりして遊びましたが…。</p>	<p><b>「きつとみずのそば」</b> 石津 ちひろ/文 文化出版局 E/キ</p> <p>ある日、ぼくの飼っている鳥のワゾーがいなくな       った。「きつとみずのそば」という手紙を手がかりに、ぼくはパパとワゾーさがしの旅に出た…。</p>
<p><b>「みずは、」</b> 山下 大明/写真 福音館書店 E/ミ</p> <p>みず水は、雨となつて森にふる。そして木や苔や土       にしみこんで、森にたくわえられる。自然の営みを撮り続けてきた著者ならではの、力強く美しい、水の恵みを訴えかける写真絵本。</p>	<p><b>「みずくみに」</b> 飯野 和好/絵と文 小峰書店 E/ミ</p> <p>飯野 和好/絵と文 小峰書店 E/ミ       きとやま里山うまれのちよちゃんは、沢遊びが大好き。今日は小犬のくろといっしよに、おいしい水をくみにいきます。新緑や沢の水、山の生き物を生き生きと描いた絵本。</p>
<p><b>「水たまりおじさん」</b> レイモンド ブリッグズ/作 BL出版 E/ミ</p> <p>おじさん！ぼくの水たまり、ある？水たまり       を背負ってやってくる水たまりおじさんと少年との不思議なひとときを描いたコマ割り絵本。</p>	<p><b>「水はうたいます」</b> まど みちお/詩 理論社 E/ミ</p> <p>まど みちお/詩 理論社 E/ミ       ひとしずくの水は、まるで透明な音符。それは、あつまり、ながれ、天にのぼり、地にふつて、うたいながら、世界をめぐる。</p>
<p><b>「もぐらのほったふかい井戸」</b> 安房 直子/作 金の星社 E/モ</p> <p>安房 直子/作 金の星社 E/モ       モグラのモグ吉はわずかな土地を買い、長い長い年月をかけて深い深い井戸を掘った。おいしい水が出るようになると、1杯を銀貨1枚で売るとなると…。</p>	<p><b>「おいしいみず」</b> 片山 健/さく 農山漁村文化協会 E/オ</p> <p>片山 健/さく 農山漁村文化協会 E/オ       みずがめさんのおいしいみずは、動物たちが飲めば飲むほど、尽きることなく湧いたので、す。ところがある日、見たことのない色みずのみずがめがやってきて…。</p>